

作例のポイント

Key points of coding case study



「HTML&CSS コーディング・プラクティスブック 8」の作例におけるポイントや使用するテクニックなどについてまとめましたので、参考にしてください。

総括

今回のページは画像、テキスト、図形といった要素を重ねたデザインになっています。そのため、構成要素が多く、まとめて管理しようとする大変なことになります。

そこで、セクション単位で作成し、適切に管理することを考えます。セクションごとに個別にコントロールが必要なものも多いため、今回の作例では汎用化よりも最適化を重視してコーディングしています。



可変サイズにする

フォント、余白、画像、装飾など、レスポンスに影響する箇所のサイズについては、`clamp()` を使用して画面幅に合わせて変化させています。これにより、メディアクエリで細かくサイズを指定する必要がなくなり、複雑なレイアウトであってもレスポンスの設定を大幅にシンプルにできます。

たとえば、大見出しや三角形の装飾画像の場合、デザインキャンプのモバイル版とPC版の画面幅 375 ~ 1440px にかけて次のようにフォントサイズや横幅を変化させています。

大見出しのフォントサイズ: 53~146pxに変化

```
h1 {font-size: clamp(3.3125rem, 8.73239vw + 1.265846rem, 9.125rem);}
```



```
.decor::after {width: clamp(2.9375rem, 1.3146vw + 2.6294rem, 3.8125rem);}
```

三角形の装飾画像の横幅: 47~61pxに変化

CSS変数を使ってclamp()を使った可変サイズを取得する

`clamp()` の値は一次関数の式を用いて算出していますが、サイズ指定のたびに計算するのは大変です。そのため、STEP 3-2 のように CSS 変数と `calc()` を使って計算を行い、算出結果を手軽に取得できるようにしています。上記の `clamp()` の値は、フォントサイズや横幅の最小値を `--min-size` で、最大値を `--max-size` で指定すると、`var(--clamp-size)` で取得できます。

```
h1 {  
  --min-size: 53;  
  --max-size: 146;  
  font-size: var(--clamp-size);  
}
```

大見出しのフォントサイズ:
53~146pxに変化

```
.decor::after {  
  --min-size: 47;  
  --max-size: 61;  
  width: var(--clamp-size);  
}
```

三角形の装飾画像の横幅:
47~61pxに変化

CSS変数で可変な基本サイズを管理する

デザインカンプの左右に引かれたガイドラインの間隔は画面幅でサイズが変わる「5vw」になっています。さらに、ページ内の各所で5vwを基準にしたサイズが使用されています。そのため、CSS変数で基本サイズとして管理し、2倍などのサイズも含めて簡単に指定できるようにしています。



```
/* 基本サイズ */
:root {
  --size1-half: calc(var(--size1) / 2);
  --size1: 5vw;
  --size2: calc(var(--size1) * 2);
  --size3: calc(var(--size1) * 3);
  --size4: calc(var(--size1) * 4);
}
```

モバイル版は7列のグリッドでレイアウトする

複雑なレイアウトにはCSSグリッドを使用します。モバイル版ではデザインカンプのガイドラインをベースにした7列のグリッドを使用しています。

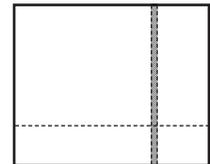


7列のグリッド

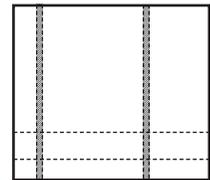


PC版はセクションごとに最適なグリッドでレイアウトする

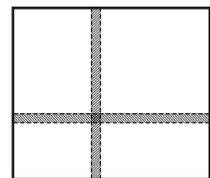
PC版のレイアウトはセクションごとに大きく異なるため、「画像とテキストの配置を調整するのに最適なグリッド」を個別に作成します。できるだけシンプルな構造にするため、周辺の余白部分はグリッドには含めず、基本サイズ（5vw）のCSS変数で管理するようにしています。ライン番号での配置指定が複雑になるケースではエリア名も活用します。



2列×2行のグリッド



3列×3行のグリッド



2列×2行のグリッド

レイアウトのバランスを保ったままCSSグリッドを可変にする

CSSグリッドも可変にするため、行列のサイズはvwやfrで指定します。特に、デザインカンパからpxで得られる画像やテキストの横幅の値をそのままfrで指定すると、レイアウトのバランス（比率）を保ったまま可変にできるのがポイントです。

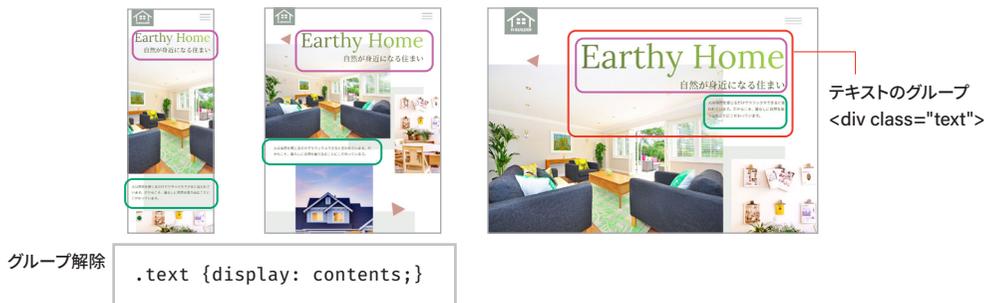
縦横比を維持した可変サイズにする

縦横比を維持した可変サイズにしたい画像は、aspect-ratio で縦横比を指定します。縦横比はデザインカンパで取得した画像の「横幅 / 高さ」で指定しています。



グループの解除

必要に応じてグループを解除し、レスポンスで配置を調整するため、display: contents を使用しています。



装飾の配置

各セクションの装飾（四角形  と三角形 ）は position で配置を調整します。レスポンスにするため配置は % で指定します。% の値は算出が必要ですが、Figma の Inspect から算出結果のコードを取得し、設定しています。



横並びのシンプルなレイアウトはFlexboxで設定する

横に並べるシンプルなレイアウトは Flexbox で設定します。



縦横中央に配置するレイアウト

縦横中央に配置するレイアウトでも Flexbox を使用しています。この設定も Figma の Inspect からコードを取得できます。

